

IV 実践事例

【発達障害】

ここでは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校で実践された発達障害の幼児児童生徒への支援の事例を紹介しています。

発達障害とは、特定の障害を指すものではなく、「学習障害」、「注意欠陥多動性障害」、「高機能自閉症」、「アスペルガー症候群」等の総称です。

発達障害は、一人ひとりの発達段階や障害の程度等の実態は多様で、それまでの育ちや環境等によっても、成長の過程は異なり、二次的に引き起こされた問題の表れ方も様々です。

したがって、支援を行う場合も、同じ方法が役立つこともあれば、うまくいかないこともあります。

詳しくは、「支援をつなぐ」(H19. 3山口県教委)を参照してください。

また、発達障害は比較的新しい概念であり、これまでに指導方法、内容の十分な蓄積がありません。今後、各学校では、事例を蓄積していくことが大切であり、校内委員会等で、ここで紹介している事例を参考にしながら、どのように支援するのか検討を進めてください。

その際、「Ⅲ 事例検討会の進め方」(P7)を参考にしてください。

【校内体制の機能】

本県のすべての小・中・高等学校では、校内委員会の設置、校内コーディネーターの指名等の校内の支援体制が整備されていますので、今後は、この体制がうまく機能して、実効性のあるものとする必要があります。

そのためにも、事例検討は重要であり、事例を蓄積していくことで、全教員が、発達障害、具体的な指導や支援の在り方、保護者や関係機関との連携等への理解を深めることにつながります。

【専門的な助言】

全校体制で支援を行う必要がある場合、校長、教頭、担任、特別支援学級担任、養護教諭等で構成される校内委員会を開催し、校内コーディネーターを中心に協議を進め、指導や支援の方針、支援体制等を決めます。

しかしながら、児童生徒が示す行動の原因が理解できない、医療、福祉等の関係機関との連携が必要かもしれない等の困難な事例では、専門家からの助言・援助が必要になることもあります。

その際、必要に応じて、小・中学校に設置されているサブセンターや県内7校の総合支援学校に設置されている特別支援教育センターに依頼し、地域コーディネーター等の協力を求めることもできます。

また、専門家の助言が必要な場合は、心理学の専門家、理学療法士等で構成される専門家チームに相談することもできます。

1 幼稚園

(1) 集団での活動が苦手な幼児

〔要約〕

活動への見通しがもちにくく、集団での活動が苦手な幼児が在籍する学級における授業研究をとおした支援の事例である。その日の活動の流れをカード化することにより、スムーズに次の活動に移ることができるようになってきた。また、一日の生活の流れが日頃と異なる場合、見通しがもてるように、事前に、絵や写真を使って、繰り返し説明したことが効果的だった。

ア 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



- ・朝の支度や降園準備など、決められたやり方や手順を守ることが難しいが、一度理解した手順は確実にこなそうとする。
- ・運動会や学芸会、遠足等、日常の生活とは異なる行事への参加を苦手とする。
- ・集団生活の場面で、突然歩き回ったり外に出ようとすることが多い。
- ・手遊びや歌遊び等、興味関心があることには集中して取り組むことができる。
- ・ラジカセの操作が大好きで、気に入った音楽を聞くことに集中するが、ラジカセをなかなか手元から離すことができない。

イ 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

- ・一つの活動が長時間にならないように、短いサイクルで取り組ませる。
- ・活動をスモールステップに分け、一つひとつ確実に達成できるように支援する。
- ・活動に入る前には、あらかじめよく説明をする。説明の時は絵カードや写真等を利用して注意を促す。
- ・日々の生活の中でいくつかの約束事を決めておき、繰り返し確実に実行させるようにする。

ウ 保育実践

○活動名 ダンス「ゼッコウチョー」

○活動のねらい 曲に合わせて体を動かす活動を楽しむことをとおして、意欲的に伸び伸びと踊ることができる。

○活動の流れ（概略）

時刻	活動	教師の援助	A児に対する援助
9:00	○登園する。	○一人ひとりの表情を見ながら、明るく、笑顔で出迎える。 ○身支度ができていなかったり、とまどっていたりする場合は声をかけ、一緒に身支度をする。 ○身支度が終わった者からトイレに行ってから席に着くように伝え、全員がそろったら、本日の活動を話す。	○身支度の流れをカード化し、ひとつずつ確認をしながら、自分でできることはさせるようにする。 ○別の保育室で、補助教員とダンスのビデオを見たり、フープで遊んだりすることで、運動会に向けての抵抗感を少なくしていく。
10:00	○園庭に出る。	○踊る場所を知らせ、自由に踊るように伝えるとともに、教師が楽しく踊ってみせる。	○補助教員と一緒にみんなの中に入り、活動の説明にあわせてダンスの静止画を見せて注意を促す。

	○ダンスを踊る。	○意欲をもって伸び伸びと踊ることができるよう以下援助を行う。 ・1回ごとに踊りを終えて区切りをつける。 ・体の動かし方、動きの大きさ、表情等、がんばったこと、できたことをしっかりと称賛する。 ・個別に励ましたり、アドバイスしたりしてから、2回目の踊りを開始する。	○補助教員とテラスに出る。 ○本児が他の園児の動きを見て体を動かし始めたら、補助教員は、しっかりと称賛し、みんなのところに行くように誘う。 ○集団に入ることを強く拒む場合は、テラスで補助教員と踊る。 ○カセットデッキのそばに行きたがるのが予想されるので、テラスに出たときに次のことを約束しておき、守れたらしっかりと称賛する。 ・曲が2回終わったらカセットデッキのところに行ってもよい。 ・カセットデッキには触らず、音楽を聴くだけにする。
10:30	○休息をとる。	○練習後は年長の練習を見たり、好きな遊びをしたりして過ごさせる。	
11:00	○降園準備をする。	○身支度が終わった者から席に着くように伝える。 ○手遊びや歌遊びをしながら、全員がそろそろまで待たせる。	○カードを利用して、身支度が終わったら大好きな手遊びや歌遊びに参加できることを伝え、見通しをもたせる。 ○そばにいる補助教員は、手遊びや歌遊びのリストを適宜見せる（順番を確認する）ことで、活動の終わりを意識させ、次の活動（絵本）へスムーズに移ることができるようにする。
	○絵本を見る。	○全員がそろったら、リクエストの多い絵本を一度読み聞かせ、終わりのあいさつをする。	○絵本の読み聞かせに参加することが難しい場合は、別の保育室で、補助教員とダンスのビデオを見たり、今日がんばったことを振り返ったりする。
11:30	○降園する。	○本日の活動を一緒に振り返り、楽しかったことを話し、一人ひとりを笑顔で見送る。	○がんばったこと等を保護者に伝えて見送る。

エ 保育後の協議



<保育者の自評>

- ◇登降園時の一定の決まった流れを細分化し、カードにして示したことで、本児にも何をすべきかが分かりやすいため、園での生活をスムーズにスタートすることができた。
- ◇登園してすぐに集団の中に入らずに、本児の落ち着く場所で、ビデオで活動の予告を行ったり、フープを使って遊んだりすることで、集団に対する抵抗感を軽減することができた。
- ◇本児のペースを尊重し、体を動かすたびに称賛することで、称賛を期待して体を動かしたり、教員の動きを模倣したりしようとするなど、踊ることに興味を示すことができた。
- ◆集団の中で踊ることには抵抗があったようなので、最後までテラスの近くで活動をするようになったが、本児の様子を見て教員と一緒に集団の中に入り、難しいようであれば再び少し離れる等、集団での活動をもう少し試みてもよかった。
- ◆すぐ目の前に大好きなラジカセがあったため、本児が落ち着かず、ラジカセを使うときの約束事を十分に説明することができなかった。場の設定や事前の指導について検討する必要がある。

<支援内容・方法の検討の概要>

- ◇カードの利用にも慣れ、次に自分がすべきことを予測しながら身支度をしている様子うかがえた。学級全体でも使うなど、カードを今後も効果的に活用するとよい。
- ◇本児が落ち着く場所で、好きな人と過ごす活動を一日の最初に設定することで、安心して取り組むことができていた。踊っているときに、みんなの方を何度か見ていたが、集団での活動に誘うチャンスであったように思う。担任と補助教員との事前打ち合わせの中で、本児にチャレンジさせたい場面を明確にしておくとい。
- ◆大好きな手遊びや歌遊びを活動の終わりに設定することで、本児は最後まで楽しく取り組んでいた。集団への参加を促すのであれば、絵本の読み聞かせの後に教員と園児、あるいは園児同士による手遊びや歌遊びを行うことも効果的であると思う。
- ◆降園前の振り返り活動で、本児ががんばったことを全員の前で紹介するようにしてはどうだろうか。その積み重ねが他の幼児が本児を理解していく一助となる。
- ◆ラジカセの操作にこだわる傾向があるが、それを生かして、約束を3回守ったら5分間自由にラジカセを操作できるなど、自分が「何をどれだけがんばったら、〇〇をすることができる」というルールをつくっていくとよい。



オ フォローアップ

<支援の内容・方法の工夫>

①カードの活用

- ・登降園の準備だけでなく、他の活動の際にも、その流れや内容をカード化したり図式化したりするなどして、視覚的に分かりやすい形で示すことにより、見通しをもって活動できるようにし、積極的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・登降園の準備の際利用しているカードについては、自分でどのカードの内容を行うか、あるいはどのような順番で行うかなどを自己選択させる場面を増やしていくことを検討する。

②集団活動の工夫

- ・大好きな手遊びや歌遊びだけでなく、さまざまな活動において仲の良い園児とペアを組んだり、小集団を編成したりするなどして園児相互のかかわりあいの機会を設定する。
- ・ラジカセやビデオの操作など、集団の中で役割をもたせることで、集団の中での自己存在感や有用感を育てるようにする。また、担任は毎時間必ず本児を称賛するよう心がける。

<幼児の状況>

- ▽本児は、毎日繰り返される活動について、自信をもって自分から取り組む様子が見られるようになった。現在は保護者の協力を得て、絵や写真を利用した予定の把握やチェックリストの活用を始めている。
- ▽行事等への参加は、事前の十分な説明と、個別の支援を必要とするが、体をよく動かすようなやり取り遊びを日頃の生活の中で継続することにより、教員がタイミングよく促せば、集団での遊びに参加できるようになってきている。



(2) 休み時間や遊びの場面でトラブルの多い幼児

〔要約〕

友達と一緒に遊ぶことが難しい、自己主張が強い、友達とけんかになりやすいなど、対人関係に課題のある幼児が在籍するクラスにおける支援の事例である。担任が誘って集団での活動の楽しさを体験できるようにするとともに、協力して準備や片付けをする活動の経験により、友達に誘われて一緒に遊ぶ場面も見られるようになってきた。担任が友達との仲立ちをし、一緒に遊びたい気持ちを伝える言葉を身に付けるように支援したことが効果的だった。

ア 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



- ・友達と一緒に遊ぶことが少なく、みんなの横で一人で本を読んだりパズルで遊んだりする。
- ・担任の促しがあれば、集団に入ろうとすることができる。
- ・ジャンケンの勝ち負けなど、ゲームのルールを理解することができる。
- ・他の園児の道具やおもちゃを取り上げたり、取り返そうとした園児に大きな声を出したり、突き飛ばしたりすることがある。
- ・言い出したら聞かない面があり、担任や友達に注意を受けることで、さらに興奮してしまうことがある。

イ 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

- ・担任が遊びに誘って楽しさを体験できるようにする。
- ・役割や順番を守り、簡単なルールが理解できるような活動を意図的に取り上げるようにする。
- ・注意や指示は担任が行うことを学級全体に徹底することで、園児同士のトラブルを起こさせないようにする。
- ・トラブルが起こったら、落ち着いてから行動を振り返る機会を設ける。その際にはTTで対応し、いきなり叱咤激励せず、本児の気持ちに共感しながら接することを共通理解しておく。

ウ 保育実践

○テーマ 「豊かな秋、楽しい秋～動物園をつくろう～」

○保育計画

ね ら い	主 な 内 容
○身近な動植物に関心をもつことができる。	・楽しかった動物園での思い出を振り返り、何が一番楽しかったのかを一人ひとりが発表しながら、動物の種類や名前を思い出す。
○動物園での体験をもとにイメージや言葉を豊かにすることができる。	
○感じたこと、考えたことなどを自由に描いたり作ったりすることができる。	・自分が描きたい動物をパスかコンテを選び、画用紙に伸び伸びと描く。
○自分の考えたことや思ったこと、気付いたことを友達や担任に伝えようとするとともに、相手の思っていることに気付くことができる。	・動物園の動物や建物、オリ、木などを紙粘土で自由につくる。
○動物園を作る過程で、想像する楽しさを味わうとともに、友達と一緒に作業を進める楽しさを知ることができる。	・自分が作った絵や紙粘土に着色する。
	・動物園の回りにはる旗をマーカーで描く。
	・協力して大判用紙に着色し、動物園の土台をつくる。
	・自由に切ったりはったりした折り紙を動物に見立て、必要な部分を描き加える。
	・友達の折り紙を見て、何に見えるか話し合う。
	・着色された土台の上に、動物の絵、紙粘土、折り紙を友達と協力してレイアウトした後、旗をはりつけて自分たちの動物園を完成させる。

※本計画に関連して、動物が主人公の絵本や歌を取り上げる。

本：「月のうさぎ」「くいしんぼねずみチョコロとガリ」「十二支のはなし」

歌：「森の熊さん」「どんぐりころころ」「ぞうさん」「空にらくがきかきたいな」

※本計画後、学芸会の劇「十二支のはなし」に取組み、自分もっている動物のイメージを動きや言葉などで表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう活動につなげていく。

○本時のねらい 自分が描きたい動物を伸び伸びと描くことをとおして、動物に対するイメージや言葉を豊かにすることができる。

○活動の流れ（概略）

時刻	活動	教師の援助・配慮事項	A児に対する援助・配慮事項
9:00	○登園する。	○体調のすぐれない幼児はいないか、一人ひとりの表情や動きをしっかりと見る。 ○全員のトイレと身支度が終わったことを確認し、本日の活動内容を伝える。 ○各園児が前時まで発表し、印象に残っている動物の絵カードと単語カードを提示しながら園児と会話するとともに、各自が描く動物を確認させる。	○あいさつの際に、恥ずかしがって素通りすることが多いので、周辺の園児も含めて「あいさつをするとかっこいい」「先生は楽しみにしているよ」等と語りかけ、あいさつを促す。 ○前時に本児が語った動物の絵カードをもう1枚用意して、補助教員がそばで本時の活動を確認する。また、おもちゃの時計を使って何時まで描くのか伝える。
10:00	○絵を描く。	○パスとコンテで描いた動物の絵を見せ、どちらの道具で描いてみたいか問いかける。 ○園児が自由に選べるように、絵の具や画用紙をいくつか用意する。 ○パス組とコンテ組に分かれて、自由に絵を描かせる。 ・パス組→コンテ組の順番で描かせる。 ・待っている間は折り紙を使った自由な活動をさせる。 ○描くことが苦手な幼児には、次の援助をすることにより、活動への参加を促す。 ・図鑑や絵カードを見本に描かせる。 ・図鑑や絵カードを見せたり、動物園での思い出を聞いたりしながら、その動物の特徴的な部分を描かせる。その他の部分は必要に応じて、教員が描き足すようにする。	○本児が選んだ道具の組から始め後半の自由な折り紙遊びまで集中を途切れさせないようにする。 ○補助教員と一緒に、描く部分を確認しながら描くようにする。 ・「お顔大きかったね」「耳はどこにあったかな」「他には何があるの」等と問いかける。 ・周囲の園児が描き足していくものを模倣して描かせる。 ・本児と補助教員が交互に部分を描くようにすることで、やり取りを試みる。 ○折り紙を大量にとるので、折り紙が1枚置ける大きさの盆に、1枚置いてから自分の席にもっていくようにさせる。 ○補助教員は何を折っているのか聞いたり、丁寧に折れている部分を見つけて隣の友達に紹介したりして友達との仲立ちをする。 ○他の園児の道具や折り紙を取り上げようとするなど、トラブルが生じたときには、集団から少し離れた場所に連れて行き、何がしたかったのか尋ね、したかったことをするにはどうしたらよいかを教える。
11:00	○絵を見ながら、動物の名前や特徴を話し合う。	○時間がきたら描く活動を終え、全員の作品を並べて、うまく描けている作品を紹介したり、がんばっていた部分を称賛したりする。 ○時間内に描くことができない場合は、食後の時間や自由遊びの時間に描く機会を設定する。	○本児の描いた作品を取り上げ、がんばったことや発見したことなどを必ず紹介するようにする。
11:30	○降園の準備をする。	○身支度が終わった者から席に着くように伝える。 ○絵本の読み聞かせをしながら、全員がそろそろまで待たせる。	○他の園児とトラブルがあったときには、全員がそろそろ前に、周囲とうまくやっていくための行動を具体的に示す。 ・「～したかったから」「～してごめんね」等を友達に伝える。
11:45	○降園する。	○本日の活動を振り返り、楽しかったこと、がんばったことを話し、一人ひとりを笑顔で見送る。	○一日の様子を保護者に伝えて、引き継ぐ。

エ 保育後の協議



<授業者の自評>

- ◇園児たちの思い出を事前に把握しておいたため、一人ひとりの園児の思いを言葉で確認（やり取り）しながら描く活動を進めることができ、園児たちは表現し、伝えることの喜びを味わうことができた。
- ◇園児を2グループに分け、時間差で描く活動を一度に行おうとしたが、描きたい動物や思いがバラバラで、時間を要した。また、待ち時間をもてあましてしまう園児もいた。
- ◆補助教員が、本児と交互に動物の部分を描き、一緒に描いていくことで、作品を仕上げることができたが、本児が一人で続けて描こうとしたときに、その動きを中断してしまうことがあった。一人でできたという達成感を味わわせるためには、本児の様子を見て柔軟に対応する必要がある。
- ◆折り紙を使った活動のとき、補助教員が本児と周辺の園児の様子を見守りながら、折っている動物や折り方、動物に対するイメージ等を話題にして間に入ることで、友達とかかわる機会を得ることができた。
- ◆本児が他の園児とトラブルを起こしたときに、補助教員が対応し、その思いに共感しながら対応するように努めたが、すぐに謝ることができなかった。

<支援内容・方法の検討の概要>

- ◇トラブルが起こったときに、落ち着いた状況で本児の話を聞こうとしたことはよかった。相手の幼児の話もよく聞き、それを伝えるようにして、一人ひとりの園児が納得できるように声かけをするようにすれば、他の幼児が本児のことを理解することにつながる。
- ◇図鑑などを用意したことは、幼児の関心を深めるには有効であった。また、絵や折り紙の制作過程で、園児の小さながんばりを見逃さないようにし、励ましや手助けをすることは大切である。
- ◆本時のように、補助教員と一対一でやり取りをしながら活動に取り組むことが定着してきたら、本児の好きな活動を通して、友達とのかかわりがより多く生まれるようにしてみてもどうか。
- ◆描くことがあまり好きではなかったり、集団に入ることが難しかったりする本児のような場合、担任は本児が気付いたことに共感したり、本児なりの表現を認めたりする等、本児の気持ちを大切にされた対応をするとともに、それを他の園児の前でしっかりと伝え、認めることで、意欲的・主体的な活動につなげるようにする。



オ フォローアップ

<支援の内容・方法の工夫>

①活動に集中させる工夫

- ・興味あるものとそうでないものの課題を交互に準備し、本児に自信をもたせるとともに、自分のやりたい活動を選ぶ機会を適宜設定し、園での1日の生活に意欲的に取り組ませる。
- ・担任が、本児の言葉をつないで文章にし、それを本児に言葉で返す形で自分の思いを確認させながら、安心して活動に取り組めるようにする。

②集団への参加の工夫

- ・本児の好きなパズルを取り入れ、園児が互いのやり方を模倣したり、完成までの時間やパズルの難易度（ピース数）等の目標を設定して、繰り返し挑戦したりする等の工夫により、園児同士のかかわり合いのある活動を設定するとともに、遊びを発展させていくように援助する。
- ・無理に誘われることがストレスになる場合もあるので、支援の中で一人でくつろいでもよい場面があることを教員が理解するとともに、他の園児も認めるようにして情緒の安定を図る場を確保する。

<幼児の状況>

- ▽本児は、周囲の状況の理解がよいので、見通しをもつことで、決まった時間に自分の席に座っていられたようになった。
- ▽誘われて一緒に遊ぶ場面が見られるようになったが、自分の主張を押し通そうとするため、小さなトラブルはなくなっておらず、物を投げたり大きな声を出したりすることもある。引き続き、本児だけでなくすべての園児の話をよく聞くように心がけている。



(3) 課題に集中することが難しい幼児

〔要約〕

課題に集中することが難しい2人の幼児が在籍するクラスにおける支援の事例である。取り組ませようとする課題を細分化して、一つひとつ確認しながら進めることによって、指示に従って取り組むことができるようになってきた。また、目の前の課題に安心して取り組ませるために、園でのその日の生活全体に対する見通しをもたせるようにしたことが効果的であった。

ア 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



A児	B児
<ul style="list-style-type: none"> 作業手順等をやってみせると理解できるが、自ら取り組もうとすることは少なく、声かけや手を添える等のきっかけが必要である。 一つのことが気になり始めると、そのことからなかなか離れられない。 大人に甘えることが多く、すぐに「できない」等と援助を求めたり、口答えになったりすることが多い。 自分の好きなことや決まったやり方をなかなか変えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉に説明や指示をしているときにまったく聞いてなかったり、別のことを始めたりする。 何かをやろうとすると、周囲の状況に関係なく、すぐ行動に移してしまう。 教員が丁寧に、細かく説明したり教えたりしようとする、故意に違うことを始めたり、腹をたてたりする。 思いどおりにならないと大声を出すので、友達が遊びたがらない。

イ 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

A児	B児
<ul style="list-style-type: none"> 新しいことや経験のないことに不安を感じるので、ルールや手順などを分かりやすく教える。 できることを増やしたり興味関心を広げたりすることでこだわりを減らすようにする。 視覚的に予定をはっきり知らせておくとともに、変更は早めに知らせる。また、活動の終了もはっきりさせておく。 友達の気持ちやその場の状況などを分かりやすく説明するが、指示の言葉はできるだけ短くして、他の話題（気になること）に移らないよう心がける。 まず注意を引いて、その上で指示を与えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップで達成可能な目標を設定し、「できた」「やった」と思える経験を重ねる。 指示通りに行動できたときは称賛し、意識して聞いていればしっかり行動できることを実感させる。 教えることや指示の内容は、一度に一つとするように気をつけるとともに、一つの指示による行動ができてから次の指示を出す。 復唱により指示の理解を確認する。 大事なことは絵や文字で表し、視覚に訴えるようにする。 「～をしたら、～をする」と約束事を決める。できたらしっかり称賛する。

ウ 保育実践

- テーマ 「お楽しみ会を盛りあげよう～飾りつけを楽しもう～」
- 本時のねらい 折り紙やマーカーでサンタの顔を飾りつけることをとおして、サンタに対するイメージや自分が感じたことなどを自由に表現することができる。
- 活動の流れ（概略）

時刻	活動	教師の援助・配慮事項	A・B児に対する援助・配慮事項
9:00	○登園する。	<ul style="list-style-type: none"> ○元気にあいさつを交わしながら、一人ひとりの動きや表情を見て健康状態を確認する。 ○当番に仕事をしよう声をかける。 	○一日の流れをホワイトボードに書いておき、全体に説明するとともに、不安に感じている場合には個別に声をかけ、説明する。

9:30	○好きな遊びをする。	<p>○大太鼓、長縄、ドッジボール等を出しておき、園児に選択させる。また、友達を誘って遊ぶように伝える。</p> <p>○大太鼓については、事前に流しておいた音楽に合わせて自由に叩かせるようにして、興味をもって活動できるようにする。</p>	<p>○A児には、自由遊びの間に、「いつ」「何を」「誰と」するかを書いた小さなホワイトボードを使って、前日に伝えた内容の再確認と予定の変更点の確認をする。</p> <p>○A・B児と一緒に遊ぶ園児を事前に決めておき、関係する園児に伝えておく(依頼しておく)。</p> <p>○一緒に遊んだ友達とそのままサンタづくりの作業に入るように声をかける。</p>
10:00	○サンタの顔を描く。	<p>○サンタのつくり方を教師が全員の前で実演しながら説明する。</p> <p>○サンタの材料(紙コップと折り紙)を園児に渡す。</p> <p>○はじめに顔の部分をはってから帽子、目、ヒゲをつけるようにする。</p> <p>○教師はかかわりすぎないようにして、自由な表現を引き出すことを基本とする。</p> <p>○折り紙をはることが難しい園児にはマーカーを使わせる。</p> <p>○作業への取りかかりが難しい園児には、他の園児の作品を例示したり、次のように声をかけたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンタはどんな顔をしているかな。 ・サンタを家の人に見せてあげよう。 ・プレゼントをもってきてもらえるよ。 <p>○のりをつける場所を知らせて、帽子をつけるようにする。</p> <p>○作業が終わった園児から片付けをさせる。</p>	<p>○B児には、作業の手順をカードにしておき、一つの作業が終わるごとにしっかりと称賛し、次のカードを提示する。</p> <p>○作業の手順ごとの見本を用意しておき、作業の経過や結果をイメージさせる。</p> <p>○はさみ、のり、マーカーなど、手順ごとに使う道具だけを机の上に並べることで、作業に集中させる。</p> <p>○教師の意図とは異なる作業を行っても、すぐに否定せず、サンタづくりにつなげていく。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子に顔を描いた。 →顔付きの帽子ができたね。 ・帽子をはさみで切った。 →寒いから、ふさいであげよう。 <p>○のりをつける場所に印をつけておく。</p> <p>○一つの手順が終わるごとにカードにチェックを入れて、作業の進み具合と終了を明確にさせる。</p>
10:40	○おやつを食べる。	<p>○くじでペアになった園児が並んで座るように伝え、迷っている幼児には座る場所を指示する。</p> <p>○牛乳を飲むように伝える。</p>	<p>○A児は、誰と座るかが分かっていると、登園時から落ち着かないので、ローテーションに従ってペアを決めておく。</p>
11:30	○降園する。	<p>○今日のがんばりを称賛するとともに、つくったサンタで教室を飾りつけることを伝え、翌日以降の活動に期待感をもたせる。</p> <p>○荷物を忘れないようにもって帰るように声をかける。</p>	<p>○A児には、次の日の予定を確認しながらホワイトボードに書き込んでいくことで、安心して登園するように伝える。</p> <p>○B児には、今日がんばった作業とその手順を振り返ることで、達成感を味わわせる。</p>

エ 保育後の協議



<保育者の自評>

- ◇小さなホワイトボードやカードを使って、活動の予定や進捗状況、活動の終了を確認しながら進めたため、いつもより落ち着いて取り組むことができた。
- ◇自由遊びの時間や作業の合間を利用して個別に対応することで、園児は自分の思いや考えを聞いてもらったり、一つひとつの活動に納得して取り組めたりしたので、課題に集中することができた。しかし、丁寧な支援のために時間を要し、全体としての活動が遅れたり、待ち時間ができてとまどっている園児が出てきたりした。
- ◆サンタを早く作りたいという気持ちが強く、他の園児に材料を配っている間に、教師の説明を聞かずに作業を始めてしまう園児もいた。材料を配り終えてから道具を配ったり、待つことができる園児から配ったりするなど、配る物や園児の順番を工夫すればよかった。
- ◆サンタの顔をつくる活動では、折り紙だけでなく、マーカーという選択肢を設定したことで、折り紙が苦手な園児もしっかりと活動することができた。また、マーカーは時間短縮の点でも効果的だった。

<支援内容・方法の検討の概要>

- ◇課題に集中することが難しい園児に対して、少し離れた場所に移動して、まず教師への注意を向けさせてから、その上で指示を与えたことは効果的な対応だった。
- ◇できるだけ丁寧に園児の話をお聞きしたり、説明したりしながら進めたことで、園児は安心して取り組んでいた。時間的な面も考慮すれば、補助教員との事前の打合せができるとうい。
- ◇他のことをしたがつている園児に、「サンタの目を描いたらね。」「ヒゲをつけたらね。」と指示した担任に対して、「あー言えばこう言う。」と答えていた。これは、担任とのかかわりをもっと求めているためか、指示が多すぎることに原因があるのかもしれない。
- ◆指示を細かくすることは大切だが、自由に活動させる場面や園児同士のかかわり合いを大切にすることも必要である。
- ◆ホワイトボードによる予定の確認や、カードによる手順の説明及び進捗状況のチェックは全体に対しても有効だと考えられる。その上で、ミニホワイトボード等、個別用のものを準備するとよいのではないかと。そうすれば、特定の園児がいつも最初から特別の支援を受けているというイメージが軽減されるというメリットも生まれる。



オ フォローアップ

<支援の内容・方法の工夫>

①活動に集中させる工夫

- ・活動の内容や手順を絵カードや写真等で分かりやすく伝える。同時に、言葉による指示は、具体的で一度に一つにするなど必要最小限にとどめ、園児が混乱しないようにする。
- ・話をしっかり聞き、励ますことを基本とするが、興奮したり拒否的な態度が強くなったりしたときは、あえて働きかけないで、少し離れた場所に移動し、落ち着かせるようにする。

②教材等の工夫

- ・作る物や材料、作る手順や利用する道具を複数用意し、本児に選択させたり、進み具合に応じて有効な選択肢を提案したりする等して、「できた」「やった」という実感をもたせる。

③教師の役割分担

- ・指示に従って活動する場面と自由に活動する場面とを組合せながらめりはりをつけるとともに、本児のエネルギーを発散させる場を確保する。また、教員間の事前の打合せにより、担任と補助教員が個別に支援する場面と支援の内容を明確にしておく。

<幼児の状況>

- ▽A児は、作業内容や手順の理解はスムーズなので、一つ一つの活動内容と見通しを伝えながら進めることで、作業中に他の話題を話すことは減ってきている。最近では指示の復唱により、自分のことを確認するとともに、活動が終わる度に、担任と一緒に自己評価を行っている。
- ▽B児は、指示どおりにできたときの称賛を求めて、課題に集中して取り組むことができる場面が増えてきた。「～してから、～する」というルールを本児の様子を見ながら整理し、日々の保育活動全体を通して守らせるようにしている。



*** 解説**

これまでに取り上げた3事例では、臨床心理士や地域コーディネーター等の専門家を招へいしての事例検討が行われ、高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD等の発達障害を念頭においた助言がなされました。園での日頃の様子から、担任は何らかの「気づき」をもっていますが、保護者は、障害を受容できていないケースです。

そのため、専門家からは、園生活でいかに支援していくかという助言とともに、保護者との信頼関係を大切にしながら、保護者が我が子の状況があるがままに受け入れ、医療機関等への相談につなげていくための支援を受けました。

保護者が、我が子の障害を受容していく過程を下図にまとめています。

